



生徒会は人生の先取り体験？

第51回のインタビューは
小方学園の中学校生徒会
執行部の皆さん です。

小方学園の中学校生徒会執行部の皆さん（正副会長と書記、会計、各専門委員会の委員長）の計10名、うち1名欠席にお話を聞きました。インタビューした3月半ば時点で全員2年生。12月に3年生から引き継ぎ、初めて経験する活動に忙しく取り組んでいました。数日前に3年生を送る会という大仕事をやり遂げたばかりでした。

生徒会のスローガンは何ですか

スローガンはまだ決まっています。一人一人の力で一つのものを創り上げ、達成できるようなものを考えています。「団結力」「協力」「つながり」をキーワードに、学園全体の士気を上げ、全員が団結して取り組めるスローガンにしたいです。体育祭や文化祭などの行事も大切にして、全員が納得し、学園全体を盛り上げられるものができると思います。

——6月の総会で「気球」「笑顔と友情の花を届けてみんなの熱で最高到達点へ」に決まりました。

学校自慢がありますか

小中一貫校であることです。小学生と中学生が同じ校舎にいて、休み時間に校庭で一緒に遊んだり、給食を食べたりと、いろいろな場面で交流できます。一人ずつペアで手紙を送り合う「お手紙交流会」や、ごみ拾いボランティアも一緒にしています。また、小中学生がお互いの授業を訪ねる「あこがれ授業参観」もあり、小学生が中学校の授業を先取り体験できます。学園祭の全校合唱では、毎年迫力のある明るい歌声が響き渡ります。「口」の字型校舎の中央にある「光庭（ひかりにわ）」もお気に入りです。

生徒会のやりがいや大変なことは何ですか

3年生を送る会や入学式などの行事を成功させるため、仲間や先生方と協力し、長い時間をかけて準備しました。大変すぎて生徒会へ行きたくないと思うこともありましたが、みんなが必死に準備する姿を見て、自分も頑張らなくてはと最後までやり切ることができました。運営は初めてで、どうしても楽しんでもらえるかを考えながらスライドや原稿を作るのは大変でしたが、先生や友達に「すごくよかったよ」「次も期待しているよ」と言ってもらえると、次も頑張ろうと思えて、やりがいになります。

学校や生徒会の困りごと・課題はありますか

一番大変なのは部活動との両立です。今年の生徒会は10人中8人が部活に入っていて、行事の前後は部活に行けないことも多く、両立が難しいです。役員同士で意見がすれ違い、話がまとまらないことも課題です。人前での発表も緊張し、声が小さくなることもあります。仲間と励まし合い、勇気をもって司会や発表をしています。

大竹市の好きなところは何ですか

自然と暮らしやすさが揃ったところです。瀬戸内海に面し、海の景色がきれいで散歩や釣りが楽しめます。広島市や岩国市にも近く、通学や買い物にも便利です。自然が多く静かな環境で、落ち着いた生活ができるのも魅力です。地域の方々も優しく、挨拶がよく交わされる、温かくて暮らしやすいまちです。

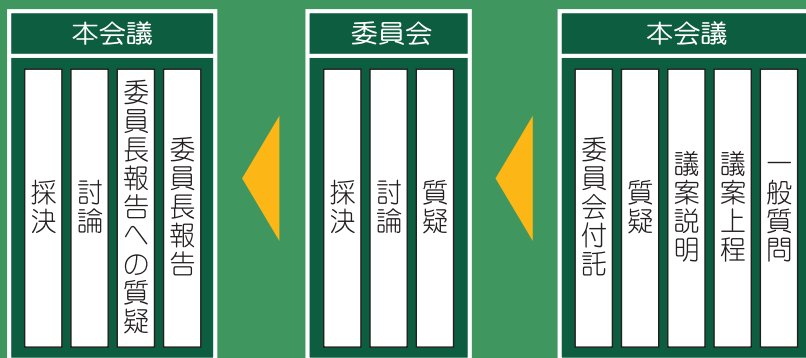


小方学園の中学校生徒会執行部の皆さん

CHECK!!



6月定例会の主な流れ



議会運営委員会
(議事の運営方針決定)

広報広聴特別委員

委員長 末広 天佑
副委員長 山代 英資
委員 濱本 恵介
岡 和明
小田 上尚典
小出 哲義
日域 究

市議会だよりは市ホームページにも掲載しています。

